

平成 20 年度「ニホンジカ保護管理」実施報告及び平成 21 年度実施計画（案）

I. 平成 20 年度「ニホンジカ保護管理」実施報告

1. 実施項目

(1) 個体数調整

大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第 2 期）に基づき、個体数調整を実施した。
また、新規捕獲手法の検討を行った。

(2) 植生保全対策

大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第 2 期）に基づき、区域保全対策、単木保護対策を実施した。

(3) 生息環境の整備

大台ヶ原周辺地域におけるニホンジカ保護管理に関する関係機関間の情報共有を目的に「大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議」を開催した。

(4) モニタリング調査

大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第 2 期）に基づき、ニホンジカの生息状況や植生への影響について調査を行った。

2. 部会等の開催状況

年	月日	会議
平成 20 年	6 月 1 日～2 日	現地検討WG（森林生態系部会と合同）
	6 月 11 日	現地検討（西大台防鹿柵の設置現場打合せ）
	9 月 9 日	第 1 回個体数調整WG
	10 月 8 日	第 1 回ニホンジカ保護管理部会
	12 月 11 日	大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議
平成 21 年	12 月 19 日	第 2 回ニホンジカ保護管理部会
	1 月 30 日	第 1 回評価委員会
	2 月 17 日	第 2 回個体数調整WG
	3 月 13 日	第 3 回ニホンジカ保護管理部会
	3 月 25 日	第 2 回評価委員会

	平成20年												平成21年			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
評価委員会													○		○	
ニホンジカ保護管理部会									○		○					○
1. 個体数調整	←—————→ 麻醉銃、アルパインキャプチャーによる捕獲、新規捕獲手法の検討															
	⇔ 装薬銃								⇔ くくりわな(試験)		⇔ 装薬銃					
							○ WG					○ WG				
2. 植生保全対策	←—————→ 植生保全対策の実施・検討															
				○○ WG・現地検討(森林生態系部会と合同)												
3. 生息環境の整備											○ 連絡会議					
モニタリング調査							⇔ 生息密度、植生への影響調査									
	←—————→ 行動圏調査															
	←—————→ 捕獲個体調査															

図1 平成20年度「ニホンジカ保護管理」実施状況

3. 実施内容

(1) 個体数調整

ニホンジカ保護管理計画(第2期)に基づき、2から3年で生息密度を10頭/km²に低減することを目標として実施した。

①捕獲目標頭数

95頭

②実施結果

44頭(3月13日時点)

③手法

麻醉銃、アルパインキャプチャー、装薬銃(猟銃)により捕獲を行った。また、新たにくくりわなによる試験捕獲を行った。

④新規手法の検討

ビートパルプ、自動給餌装置を用いた誘引試験を実施し、効果的な誘引方法の検討を行った。

(2) 植生保全対策

森林生態系部会と合同で現地検討WGを開催し、大台ヶ原ニホンジカ保護管理計画（第2期）に基づき、平成20、21年度の防鹿柵設置箇所について、西大台のカツラ谷、コウヤ谷において詳細に現地検討を行い、場所の選定を行った。また、その結果に基づき防鹿柵設置箇所の測量を実施した。また、単木保護対策であるラス巻きについては、東大台の中道沿いにおいて、老朽化したラスの巻き直しと新たにラス巻きを行った（第2期－（案）：p34、p39）。

《防鹿柵等整備の基本方針》

①区域保全対策（防鹿柵）

◆**実施場所**：減少傾向にある植物種、多様な生物の生息環境に着目した設置場所を選定。環境、植生、地形、両生類の産卵場所を考慮するとともに、シカの被食からの保護の緊急性、歩道等からの景観への配慮、設置コストなどを総合的に判断し、まとまった範囲で設置する。

②単木保護対策（ラス巻き）

◆**実施場所**：シカの剥皮により枯死しやすいトウヒ、ウラジロモミが主要構成樹種となっている東大台において、平成19年度に引き続き、中道周辺域・尾鷲辻まで実施。

◆**実施対象**：母樹。剥皮を受けやすく剥皮により枯死しやすい樹種
(トヒ・ウラジロモミ・コマツガ・リョウブ・アオダモ・マンサク・ナカマド等)

◆**優先順位**：ラス巻き実施から年月が経過している場所（要補修カ所）
区域保全対策が実施されておらず（未実施場所）、シカの剥皮害が大きな場所（風致景観上等の理由により防鹿柵の設置がなじまず、シカの食害が多い場所）

（3）生息環境の整備

森林の保全やニホンジカの冬期移動先等、計画区域外の生息環境保全の重要性も指摘されていることを踏まえ、奈良県、三重県、林野庁、上北山村等の関係行政機関と連携して「大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議」を設置し、ニホンジカの行動圏に関するデータ、関係機関の取組内容等、ニホンジカの保護管理に関する情報の共有を進めた。

◆大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議

【構成機関】

近畿中国森林管理局、奈良県、三重県、上北山村、川上村、大台町、紀北町

【事務局】

近畿地方環境事務所

（4）モニタリング調査

①生息密度調査

糞粒法及びルートセンサスにより生息密度指標の把握を行った。

②捕獲個体調査

個体数調整により捕獲した個体の、外部計測を行うとともに年齢構成、栄養状態、妊娠の有無について分析を行った。

③行動圏調査

西大台で4個体にGPS発信機を装着した。(データ一部未回収)

④植生への影響調査

16箇所において下層植生への影響の状況を調査した。

(5) 大台ヶ原自然再生推進計画の見直し

平成17年1月に策定した大台ヶ原自然再生推進計画による取組の実施状況等の評価を踏まえ、大台ヶ原における自然再生の基本的考え方、自然再生の目標、平成21年度からの5ヶ年程度の取組等について取りまとめた「大台ヶ原自然再生推進計画―第2期―」を作成した。

Ⅱ. 平成 21 年度「ニホンジカ保護管理」実施計画（案）

1. 実施項目

① 個体数調整

- ・ 捕獲目標頭数：100 頭
- ・ 手法：麻酔銃、アルパインキャプチャー、装薬銃（猟銃）、くくりわな
- ・ 新規手法の開発、既存捕獲手法の捕獲効率の向上に関する検討

② 植生保全対策

- ・ 区域保全対策
- ・ 単木保護対策

③ 生息環境の整備

- ・ 「大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議」の開催

④ モニタリング調査

- ・ 生息密度調査
- ・ 捕獲個体調査
- ・ 行動圏調査
- ・ 植生への影響調査

	平成21年										平成22年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
評価委員会												○	
ニホンジカ保護管理部会							○				○		
地域意見交換会	← 地元で開催されるイベント等への参加や意見交換 →												
1. 個体数調整	← 麻酔銃、アルパインキャプチャーによる捕獲、新規捕獲手法の検討 →												
	↔ 装薬銃・くくりわな						↔ 装薬銃・くくりわな						
						○					○		
2. 植生保全対策	← 植生保全対策実施地点の決定・測量・施工 →										← 次年度以降の詳細検討 →		
3. 生息環境の整備									○				
モニタリング調査	← 生息密度、植生への影響調査 →												
	← 行動圏調査 →												
	← 捕獲個体調査 →												

図2 平成 21 年度「ニホンジカ保護管理」実施スケジュール